

Photo Masao Kobayashi

神戸の名木

八多毘沙門天のくぬぎ



所在地 北区八多町吉尾

■神姫バス 吉尾二〇〇m

さなえだ

早苗田にくぬぎの大樹が映る

この木は旅人の目しるしとして交通の上
に大きな役割をはたし、今も土地の
人から田地の神としてあがめられている。

シリーズ
ハイカラ神戸専門店物語
この靴
愛して下さい!
PARTⅢ



本格派の人々に愛される

ヨシオカ

●梅雨時のお手入れ法

①湿度の高い季節は、かびが生じやすく、知らずにそのままほっておくと、厄介なことになります。

靴の中に、新聞紙をつめほこりをよく落して、紙または布にくるんで保存をします。

②使用中の靴は、シューキーパーを入れて、泥やほこりをよく落として、濡れている場合はよく乾くまで使用しないで下さい。

③靴クリームは、油脂性と乳化性とがあります。交互にご使用されるのが一番良いと思います。その時はよくのばしてご使用して下さい。

④お天気の良い日には、下駄箱から出して風通しの良い処へ置いてよく乾かして下さい。

⑤よくお手入れをして、毎日同じ靴をご使用にならないことが長もちのコツですし、おしゃれにも通じます。

KOBE EXCELLENT SHOP

★本格派の人々に愛される

ヨシオカ

神戸市中央区三宮町3丁目1-9 ☎331-5190

★舶来品ブティック

アスターニュートン

神戸市中央区北長狭通3丁目12-14 ☎331-1818

★欧風家具・設計・創作

永田良介商店

神戸市中央区三宮町3丁目1-4 ☎391-3737~9

★選りすぐった一点を…。

Sanohe

神戸市中央区元町通2丁目5-7 ☎331-4707

★伝わる真ごころ最高の風格

金柴田音吉洋服店

神戸市中央区元町通4丁目2-22 ☎341-0693

★よろず御機衣縫上處

神戸シャリ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 ☎331-2168

★婦人帽子

maxim
マキシム

神戸市中央区北長狭通2丁目6-13 ☎331-6711

※このシリーズは上記の専門店の提供によるものです。



■食文化対談

神戸を食文化の発信基地に…

ゲスト

料理家

(株)ロックワールド代表取締役社長

奥村 彪生さん
岩田 弘三さん

(株)ロックワールドの神戸カリーのお店が6月8日御影にオープンする。カリーについて、料理家・奥村彪生先生と同社の岩田社長の対談が行われた。



岩田 神戸コロッケの第2弾というところで神戸カリーを開発しまして、6月8日御影に店がオープンすることになりました。今日は神戸のカリー「カリー元年」について、先生にお話しをお伺いして今後の参考にさせていただきたいと思っています。

奥村 私は奈良に住んでいますが、神戸の街は好きです。明治以後、洋菓子・パン・家具などの職人の街として定着しましたね。

岩田 そうですね。「カリー元年」というネーミングも、一八六八年明治元年、カリー文化の原点に遡ってということでした。

カリーは大変人気のある食べ物ですが、なぜこんなにカリーが受けるのか、今一度しっかりとカリーというものとはこういうものだ、ということをお伝えする方法を守りながら見直そうじゃないかというのが今回のコンセプ

トなんです。

奥村 今まで築かれていた文化を踏み台にして、未来のカリーあるいは明日の食生活を考えていくわけですね。私は以前から「神戸は食文化の発信基地になりなさい」と言ってきた、ここでやっと出てきていただいて大変うれしく思います。

ところで、日本でなぜカリーがうけたか。それは、井ぶりの発想だと思えます。

岩田 私もその通りだと思いますよ。

奥村 日本人はわりとごはんにものをかけて食べるのが好きなんです。忙しい人は尚のことです。そういう食べ方は、本来品の悪い食べ方だとされていましたが、実は一番美味しい食べ方なんです。

まず、ごはんを一口食べますね。次におかずを食べて口の中でミックスします。これを私たちは口中調味と呼んでいます。

岩田 なるほど、それは面白いですね。

奥村 カリーは、皿の中にごはんとカリーソースが一緒に入っているから口中調味の前作業なんです。

岩田 なぜ、神戸でカリーなのかなんですが、やはりおいしい米があり、和牛が手に入り、淡路



新 知 故 温

神戸から、
お皿の中の
文明開化。

OPEN

平成3年6月8日

御影ガーデンシティー

電話 078-841-5529

製造発売元

株式会社 ロック・フィールド



奥村 彪生さん

の玉ネギがある。材料が揃っていますから。カレーは、インドから英国を経て伝来し、日本の井ぶりの発想のもとでフュージョンさせた、食品として和魂洋才の大傑作と言えるでしょう。ですからここで今改めて、カレーというものについての情報発信をしていかなければなりません。そしてもう一つ、水なんです。カレーの場合、温かく新鮮で美味いお米と一緒に、冷たいお水を飲んで下さい。カレーにはビールでも日本茶でもダメなんです。冷たい水でなければいけません。



岩田 弘三さん

6月8日にオープンする御影のお店は、器をもっと楽しみたいというこでいい器を使っています。つけ合わせは、ご三家のうち福神漬け、ラッキョウとシンプルなものにしています。

奥村 味というものは、風土を越えられません、産物は風土によって支配されるということになりますと、なるべく材料は神戸付近で手に入れるのがいいですね。

岩田 カレーの好みは人によって違いますし、まして同じ店に

食べに行っても日によって味が違ってきます。賞味期間があつて、だいたい作って2日がピークなんです。

今回の「カレー元年」では、フランスの真空調理法とデリケートな香りを逃さない特殊容器を用いました。このパッケージなら、カレーの美味しい状態を保つことができます。

奥村 そうですね。真空調理は一番おいしい65℃前後で調理します。それが一番おいしい。そこで、美味しい手作り料理を手頃な価格でお客様に提供したいのだと共に、私がお願いしたいのは新鮮で、そして食べておいしく安心なものの作りを心懸けていただきたいということなんです。

「カレー元年」が社会の台所であってほしいですね。



フ ア ー ト ・ シ コ レ ン ク パ ー ク シ ョ ク ン

由あがりの側
久し合わぬ友人を、
結婚式の招待状が届いた。
「結婚なんて、それが口で言ったって彼女の
顔が目には写る」
驚き半分、喜びはその倍
一人の友人として心からの祝福を送りたい。
彼女の結婚相手は、7年次の恋人。
つきあいはじめた頃から、
周りの誰もが認めるお似合いのカップルで、
いつ結婚してもおかしくはなかった。
けれど、彼女大切に想うのと同時に、
仕事も人切った彼女にとって、
結婚というスタイルには、
不安や疑問が多かったようだ。
7年かかってもよく見つけた結婚
今までの道のりが、
とても自然なこのように思える。
結婚が仕事かなんて
選択する必要はないと思う。
愛する人がいて、
おれいを知れば知るほど、
ずっと一緒にいたいと思うのは当たり前のこと。
それは自分の生活の一部を分かち合いたいから思う。
もちろん大変なことたくさんあるだろうけれど、
愛に満たされた生活があれば、
どんな大変な生活が来ても乗り越えられるはずだから。
7年分のしあわせを咲かせた彼女と、
それたかさんのシェーン・ブライデルへ。
これからの人生が輝きに満ち、
光満ちたものとなりまように。

メリーヒル

ゲルラン

ボンフカヤ

シス

ルーブル・ワウイダラマ

ダイアナ

ミッシェル・克蘭

クロードレマ

タカノ

ココ山岡

三愛

キャンディ・ボ・マス
メイリン・グレイ
フイー・セット
ベキトン
ラッキーズ
ハニーハウス
イーストボーイ
ベネトン・グッ
フェアリー
サンクス・クラブ
リップスター
メイトンプレイス
ヴィフ
バルナゼン
ロイス・クレヨン
アラブ・グレッグ

ミシュー・エタム
ブー・ジ
クラブ・メッド
リーフ・ノット
アトモスフェア
ヴィッキー
アラン・マヌキャン
キャトルセゾン
ハウスオブローゼ
ワコール
トリップ
ラバブル
ミセラ
シエル
ベネトン・インナー

FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ、センタープラザ3F

営業時間 11:00-20:00 PHONE 078-332-1698

第3月曜・定休日

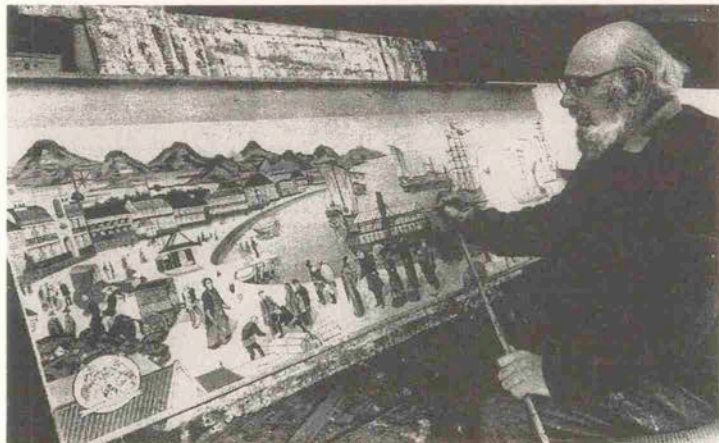


これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の心の手帖です

6月号目次 ● 1991・362

- 表紙／(故)小磯良平名作シリーズ
 セカンドカバー／西村功
 11 神戸っ子91／阿藤久子・橋茂
 14 ある集い／ふるさとの料理・洋菓子天国kobe
 17 コウベスナップ／神戸まつり91
 18 アートインタビュー／朱海慶
 20 神戸の名木／小林政夫
 31 私の意見／笹部昌吾
 33 ポエム・ド・コウベ〈6月〉詩・松原千智 カット
 石阪春生
 34 随想二題／服部洋介・舟木かな子
 36 地域文化論／米花稔
 38 私と神戸／文・岡部伊都子 絵・西村 功
 40 連載エッセイ／文・青木はるみ 絵・杉浦裕二
 42 小磯良平遺作展によせて／画家／小磯良平1／山野英嗣
 46 エッセイ／モナリザの微笑と顔面神経・雲井健雄
 48 兵庫大仏開眼供養おごそかに
 52 兵庫大仏まつり
 55 経済ポケットジャーナル
 56 真珠特集(Ⅰ)パールクリエーター16
 65 真珠特集(Ⅱ)パールフェスタ'91
 68 キャンペーン座談会〈余暇時代のライフスタイル〉
 出席者 坂東慧・前田和穂・三浦明定
 74 ネオモダメルヘン／竹中紀子
 76 ファッションスポット
 84 神戸のお嬢さん／堤川真里・相原紀子
 86 真珠特集(Ⅲ)パールバドゥ
 104 ひょうごウォーク／さわやかな県土づくり県民運動／高橋孟
 113 コーヒー・ブレイク
 114 動物園飼育日記／ソウの動物園史(20)／亀井一成
 118 プロフェッサーPの研究室／岡田淳
 122 話題のひろは／生田神社・そこうWING音楽商店
 124 Kobe Topics
 126 K・F・Sニュース
 127 神戸を福祉の町に／橋本明
 134 有馬歳時記
 136 神戸百貨会だより
 138 ミダンカルチャー
 140 シネマ試写室／「アシタ・ケリブ」／淀川長治
 142 ぴゅといん
 144 ポケットジャーナル
 147 神戸っ子倶楽部会員情報
 148 るぼるな〜じゅ神戸／兵庫大仏が帰ってきた
 文・有井泰
 152 第15回神戸文学賞佳作作品発表
 連載小説「星の光・月の位置」(第3回)／作・大
 迫智志郎 絵・田中一好
 157 小磯良平名作展絵画シリーズ
 174 連載エッセイ「北野物語」／文・宮本真子
 176 海・船・港・明石・林崎から大阪湾を考える
 文・かどもと みおる
 目次写真／新谷珠紀
 カメラ・米田定蔵・池田利夫・松原卓也・森田篤志

Destination Tokyo



Buckfastleigh painter Mr Stanley Chew at work on a painting which is to adorn a wall in a Tokyo restaurant.

The mural-style picture, over six feet long by about two feet high, is based on

an old 1840 print of Kobe, and has been commissioned by a leading Chagford business.

Mr Peter Smith, of James Bowden and Son International, exporters of traditional English and Euro-

pean art and craft products, said he was delighted with the picture. It is for a company called Kobe Curry, which runs a chain of restaurants in Japan.

The project began when Mr Smith's son Jeremy in-

over a quaint old English stand.

'It has been an amazing experience for me after 45 years in the shop to be exporting only and not having to sell or stock anything in the shop. Orders are com-



温故知新

OPEN

平成3年6月8日

カレー元年

御影店

658 神戸市東灘区御影山手1-2-10

御影ガーデンシティ1F

電話078-841-5529

神戸に届いた 居留地の錦絵

明治元年（一八六八年）、神戸で生まれた外国人居留地は、当時の日本では一番進んだ文明社会。そこで見るもの、触れるもの、味わうもの、すべてが珍無類のおどろきでした。とりわけ異国の香りを発散するカレーは、文明開花の魁として、日本の津々浦々へひろまりました。神戸はカレー発祥の地といわれています。

「カレー元年」はその歩みをたどり、古き良き時代の手づくりをそっくり復活。カレー発祥の地、神戸の伝承文化を香り高くお届けします。

この「カレー元年」開店に際し、英国デイヴオン在住のスタンリー・チュウ氏が「カレー元年」のために、一八六八年の当時の資料を参考に、開港当初の神戸へ上陸した英国人の視点をイメージして描いた錦絵が、御影ガーデンシティ「カレー元年」に飾られます。

※写真は英国デイヴオンの新聞、デイヴオンタイムズに、5月3日に掲載された記事です。

今日の主役はトルチェです。



左/ジャケット ¥49,000 右/ボロ ¥29,000
 ボロ ¥18,000 ジーンズ ¥12,000
 パンツ ¥16,000

▲サマーセーター
 ¥29,000

ロータリークラブの仲間たち
 (写真左より乙守さん、工藤さん、植村社長)



MAC
 SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651
 SANNOMIYA MAC
 THE BLAZER SHOP MAC
 DOLCE MAC
 FESTA MAC
 BENET TON MAC
 BENET TON MAC
 SUNVIOLA MAC
 PLENTY MAC
 SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
 TOR-ROAD 078-391-0896
 SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
 HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
 HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
 AKASHI FORUS 4F 078-913-8142
 TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
 SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088



展示会のおしらせ

- と き 7月7日(日) AM10時～PM 5 時
- ところ 舞子ビラ本館 2 F

ブライダルサロン

中川衣裳店

三宮店 三宮センター街そごう前入る TEL 331-5333
 上沢店 上沢4丁目バス停西へ行く山側 TEL 521-0680
 舞子ビラ衣裳室 TEL 706-2908代
 長田神社衣裳室 TEL 691-7204



□私の意見

神戸に新しい 企業文化を！

——常にパイオニア精神で——

雀部 昌吾

〈神戸経済同友会代表幹事
バンドー化学株式会社取締役社長〉



本年四月より神戸経済同友会の代表幹事に選任され、私にとりましては大役ではありますが、生粋の神戸っ子として地元になしでもお役に立てばとお引き受けさせていただきます。

ご承知のように、神戸はここ数年新しい街づくりのために、様々な試みがなされ、また関西一円では多くのビッグプロジェクトが進行中あるいは計画中であります。

私どもの同友会でも、既に「90年問題委員会」で神戸経済の未来像につき検討中で、その成果を今秋提言としてとりまとめる予定になっております。今後、21世紀に向かつて神戸全体がさらに活性化され、全国そして世界から注目され、人々を惹き付ける「魅力ある都市づくり」を官民一体となり推進すべきではないかと考えます。

私どもの経済界もその一端を担わねばなりません。経済活動の基本は「新しい価値づくり」であろうかと考えます。地元の各企業がそれぞれの立場で常に創意工夫を行い、新しい物づくり——価値づくりを行う必要があります。この活動を通じ、新しい技術が生まれ蓄積されさらに高度な技術の進歩発展へとつながるでしょう。これにつれ消費も生まれ拡大し、デザイン、ファッションや文化の花も咲き、神戸経済全体の活性化を促進させると思われます。

古くは源平の時代から開かれ、またポートアイランド、六甲アイランドに見られる新しい機能が付加された国際港都「神戸」の長年に亘り諸先人により営々と築かれた「歴史」(古さ)と「進取性」(新しさ)の良き伝統を受け継ぎ、これに各企業、経済界も、新しい香り、文化を加えなければと考えます。

各企業も、それぞれユニークな顔——企業文化を築く努力を続け、われわれの「神戸」が関西で、日本で、そして世界で一段と輝きを増すよう常に、パイオニア・スピリットをもって、官民一体となって相互に協力、補完し合い総合力が発揮できるよう、努力の輪を拡げたく念じております。

(以上)

ちよつと
ジェラシーな服。



.....After Fashion

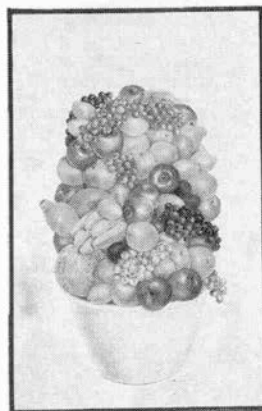
やさしくしないと、タダをこねる。

それは、お洒落着に人気のアセテートとレーヨンです。
デリケートなので、汚れすぎるとハードなクリーニング
処理で、せっかくの光沢や発色性の良さを損なうこと
になりかねません。やさしく扱って、着るたびにお手入れ
をしてください。

AFTER
FASHION
NISHIJIMA

本社／神戸市灘区記田町1 078-822-6660 ■ 神戸工場/078-851-2440
ロープ・ニシジマ三宮/078-332-2440 ■ ロープ・ニシジマ山手/078-221-2440
ロープ・ニシジマ芦屋/0797-38-3303 ■ ロープ・ニシジマ宝塚/0797-72-0810
大阪工場/06-853-1332 ■ ロープ・ニシジマつかしん/06-420-3754
リフォーム・フルフル/078-221-9110

KAKINUMA GALLERY



贈物
(油 絵)

村上美穂・作
西宮美術協会会員

新しいキャンパスに
向かうと緊張感と共に、完成時の情景が
目の前に浮かび、は
やる気持ちで絵筆を
運びます。でも、描
いても描いても、と
めどなく思いがあふ
れてくるのです。

(柿沼産婦人科に展示
6/1～6/30)

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り
☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)
月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。
当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

シヨット

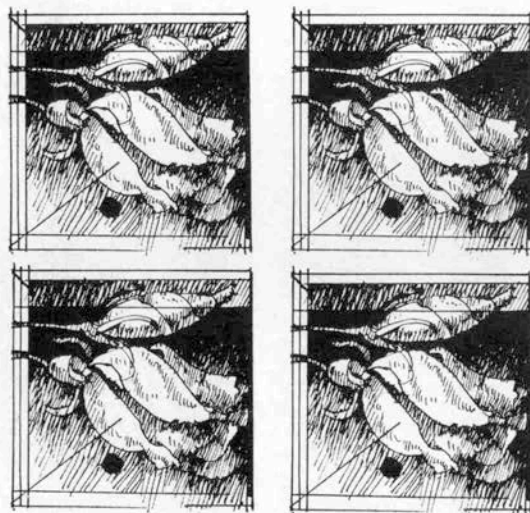
松原千智

カット／石坂春生

Aが「さよなら」と手をふって
さんちかの街を左に折れた
Aの右手はまだふられているのに
突然顔は進行方向へ向きをかえた
手だけが残っている

どこにさよならと言おうか
行ってしまうAを見つめる
いつさよならを言おうか

向きをかえる



H.I.S.H.I.S.A.K.A

随想 二題



SIGHTSEEING KOBE 3.

移情閣

これからの 永代供養のしかた

服部 洋介

△作家▽



△俺が死んだら、庭に埋葬すること▽などという遺言をされたら、どうすればいいだろう。

不動産広告で一般のサラリーマンの年収の二十倍を超えるような物件に出会っても、さほど驚かなくなってもうずいぶとなる。

ちょっと安めの（それでも、年収の十倍近くにはなるのだが）公団建て売り一戸建ての申し込みに行くと、三百倍、四百倍というような競争率のものめずらしくなくなっている。

何とかして自分の家を持とうと決心した人は、ほとんど毎週のよ

うに、分譲地のモデルハウスに通うことになる。電車に乗り、谷を越えたり、山の下をくぐり抜けたリして「パパはね、昔ここにキャンプに来て蛇に咬まれたんだよ」などと子供に話をしながら、あきもせず申し込み続けるのだ。

うまく当选したところで、福引きのハワイ旅行みたいにただというわけにはいかない。年収の十倍というのは、飲まず食わず、着の身着のままで過ごしたとして返済が十年かかるということだ。

自分一人ではとうてい支払いきれないから、親子二代という途方もなく長いローンを組んで子供に借金の一部を担わせるか、もし親が健在なら、嫁姑の関係のわずらわしさをがまんして、二世代同居に踏み切るよりしかたがない。

そんなふうにしてようやく手に入れたあこがれの一戸建てには違いがないが、庭なんて猫の額に棲

む蚤の足の裏ほどこかない。なけなしの退職金を息子の夢をかなえてやるために全部吐き出したのだから、一つくらい無理な願いをしてもバチは当たらないだろう。

というわけで、冒頭の遺言に戻るのだ。墓地はどんな法律で取り扱われるのだろうか。

遺骨を仏間に置いておくのは違法ではない。遺骨を仏間ではなく居間に移すのかもしれない。遺骨を抱いて庭に出るのも、もちろん問題ではない。煙草に火をつける間、遺骨を地面に置くのも、たぶんかまわないだろう。地面に穴を掘って、そこに置いてみるのはどうだろう。そして、その上から土をかぶせて、名前を刻んだ石を置くのはどうだろう。

生きることにあくせくして、ふと気がついてみると、死んだ自分のおさまるべき場所がないなんておかしいことが、そろそろあなたのそばでも起こりはじめているのではないだろうか、などともっともらしいことを、ここであらためて言ってもしかたがない。

どなたかために△俺が死んだら庭に埋葬しろ▽と遺言してみてくれませんか。土地問題と老人問題がこれまでと別の角度から見えてくるかもしれませんよ。

ひすい色の童子

舟木かな子

△作家△



季節の衣かえくらしいの単位で、街が変わる。

何とはなく溜め息が洩れたりする。慨嘆なのか、感動なのか、よくわからない。「もう昔の神戸は無いね」という声をきくと、流れていく顔はいろんな角度をみせてままとりの悪いものだ、だから街なのだ、だからイメージが広がるのだ、と考えた。花の異人館街のすぐ脇に、昔ながらの蚊遣り香や蠅取りリボンを吊した天婦羅屋さんや昼網の魚を並べた魚屋さんの商店筋がある。海辺の洒落たリゾートマンションの横の辻から、いかなごの釘煮の匂いが漂い、私の住む北の町のスーパーでは、青い目の生活者がとてつましい買物をしている。ごった煮の形や匂いが、街の表情を面白くする。

私の好きな町の顔は、山本通の一宮神社の界限である。五世紀ごろ既に、集落やみなとの守護神として古書に名がある一宮さんの裏手は、白とブルーの王冠のような鐘塔と堂ぶくろに似た窓の形が可愛い神戸ハリストス正教会である。隣家は、焼杉の木目が雨あがり

に美しい日本家屋の板壁であり、路地はゆるく曲がって雑草が茂っている。この町の戦災後の復興は早かったが四十年経てばもう、青苔のなじむ古びた風情になっている。

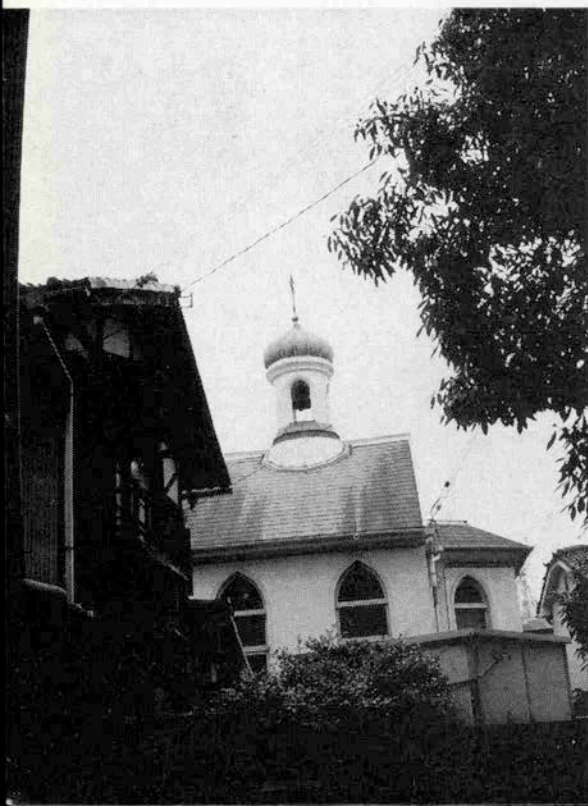
神戸の街が背負っている低い山なみには大昔から、ひすい色の童子が棲んでいる、と私は思っている。お河童髪の童子は、長い歳月の海風と陽光でからだはうす緑に透き通り、薄物の白いじゅばんと樹脂いろのたつつけ袴をはき、神出鬼没に、山の稜線を走り、街なかを泳ぐ。横丁やコンクリートの破れ目から、木立のてっぺんからヒョイと顔を出す。昼ま、樟の葉陰の又や空き地の草むらで、軽い寝息や忍びわらいが聴える。澄んだ大気の流れる深夜、童子は、市章山

の斜面に坐って港や街のねむりを見つめる。鍮の電飾が濁り、空と海に剣の刃先のような光が青く白く拉がってきて、腰をあげる。

ウインドーショッピングの人々を見あげている童子、遊園地の大観覧車の心棒で足をぶらぶらさせている童子、路地の奥の台所口をのぞく童子、と暮らしの傍にいろ。

しかし童子は、瞬時にして、あの世とこの世を往き来もしている。

私は今日も、素早く走り去るひすい色の影を見つけて、ほんと胸をなでる。ふと振り返った悪戯っぽい顔の、細い目やまるい頬や三日月形の唇もとに、かげりが落ちないように、いつまでもこの街で悠揚と出没していてくれるようにと祈りながら。



地域文化論

△その142▽

小江戸川越を歩く

蔵造りの街並み

米花 稔

△神戸大学名誉教授・福山大学教授▽

先頃高田馬場から西武新宿線で、さる研究会のためにホンダの狭山工場に向ったものの、予定より相当早いので、駅のビラに興のむくまま終点の本川越まで足をの

ばした。先年の大河ドラマ「春日局」のゆかりともいい、兵庫丹波の春日町のことも思っ

川越のまちに出ると、なにより城下町の土蔵造りの店舗群がこの見どころと知った。一番街通りと称する幸町を歩くにつれ、次々に蔵造り店、そこでのささやかながらいくつかの特徴ある展示、ま

た明治洋館も散見される街並みで、そのひとつ「蔵造り資料館」に入る。明治二六年建築の旧小山家宅という。

その年の大火で町の三分の一を焼失した折、川越商人たちがこぞって伝統の耐火建築として土蔵造りを中心に再建したという。一七棟が文化財に指定され、一部は焼け残った江戸時代のものもある。

かねて大火になやんだ江戸市中で、幕府が奨励した防火建築を、酒井、松平など幕府の重職のつづくこの城下町もこれを継承しており、明治のこの商人も、維持管理で温存していた職人集団によって、この方式を採ったという。「小江戸川越」というキャッチフレーズでPRをはじめたのは「春日局」などをきっかけとして、比較的最近のようで、歩いても静かな街並みである。

神戸北野の異人館通りのいささか賑かすぎる街並み、また昨秋久しぶりに再訪した島崎藤村の「夜明け前」ゆかりの中仙道馬籠の宿の異常なまでの賑いに驚かされたのにくらべて、ここ川越は落着い

て歩けた。

ここを通りぬけて、城下町らしいいくつかの古刹を横にみるころ、寛永年間建造という鐘櫓が正午を告げた。「春日局」ゆかりという喜多院に行きつく。家康の信頼厚かった天台僧正の創建で、偶々火災にあった再建に、天台は家光に乞うて江戸城の家光誕生の間や春日局化粧の間などをここに移築したという。春日局が住んでいたわけでないことが知った。しかしそのゆかりが最近の賑いのきっかけらしい。残念乍ら研究会の時間が迫っていたので礼拝して参観せず足を急がせた。とはいえ川越一見は意義があった。

埼玉県川越市は首都近郊都市のひとつ。昭和四〇年人口一四万、四半世紀後の平成二年の人口は三〇万近いという倍増。都市化著しいなかで、いまみてきた城下町川越の趣きはどのように引継がれるであろうか。東洋大学工学部、東京国際大学なども周辺部にみられる。まちの発展も望まれる。規模、特徴はちがうが筆者のふるさと姫路のまちの、いま新旧のパランスのなかでのまちづくりのいとなみを想起させた。

筆者の周辺で「川越？」というと東京勤務経験者をつくめて「住宅都市」という答が多かったので、一寸ふれてみた次第。



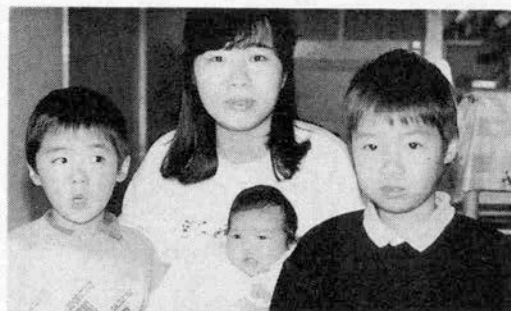
旧小山家住宅



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：松浦 由貴ちゃん（平成2年12月17日生）

ママ：洋子さん お兄ちゃん：祐司くん（6才）
康二くん（4才）

「やっと授かった女の子。みんなの宝物です!!」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室)☎576-9639

市バス上沢4 停南スグ

★★★★★

美しく贅沢に
香り貴き味わい

★★★★★



★★★★ フルーツ・ゼリー ★★★★★

8ケ入 ￥ 2000

12ケ入 ￥ 3000

—— 北 欧 の 銘 菓 ——

2-ハイク・コンフェクト

■エッセイ

私と神戸 9

京住まいの 神戸味

岡部 伊都子

〈随筆家〉

絵／西村 功

神戸で満十年を暮したわたくしには、出生地大阪とともに、仕事の出発点、人生の再生地となった神戸が、その自由な雰囲気とともに忘れられない町です。

一九六四年の秋、思いがけなく京都へ移り住むようになつて、(阪神間に適当な家賃の貸家を見つけたせなかつたからです)もう、二十七年になります。神戸も大阪も町が変化するのは当然のことですが、こちらは行くとたびに目測をあやまり、地の理が混乱します。

急に神戸を離れることになつたその秋、わたくしは取材の旅の最後の一日を神戸のホテルに宿りました。ひとり、しみじみと神戸に別れを告げたかつたからです。そして浜に住めば山を仰ぎ、山側に住めば月の大阪湾を眺めた、刻々の発見をなつかしみました。観念で思うことよりも、「住まなければわかりようのなかつた」実感からの発見が、住んだ意味でしょう。

夜はさすが、肌寒く感じられる十月半ばの午後

十一時近く、「六甲山をドライブしてください」とタクシーを頼みました。運転士さんはびっくりして「今からですか?」。ま夏なればともかく、深秋、夜半の女ひとり。何事かと不安だったのでしよう。至るところ、町に、山に、海に、別れを告げて、そう、とくに美味しい神戸の食べものと別れを告げて、知人のあてのない京へ移った当時は、未知の寂寥感に緊張していました。

先日、久しぶりに神戸へゆく日がありました。箕谷に住む姉の家からでんわ予約して、元町のあなごずし青辰さんへ。店ののれんをくぐろうとすると、その前でレンズを構えている人びとがあら、「何があるのかしら」。

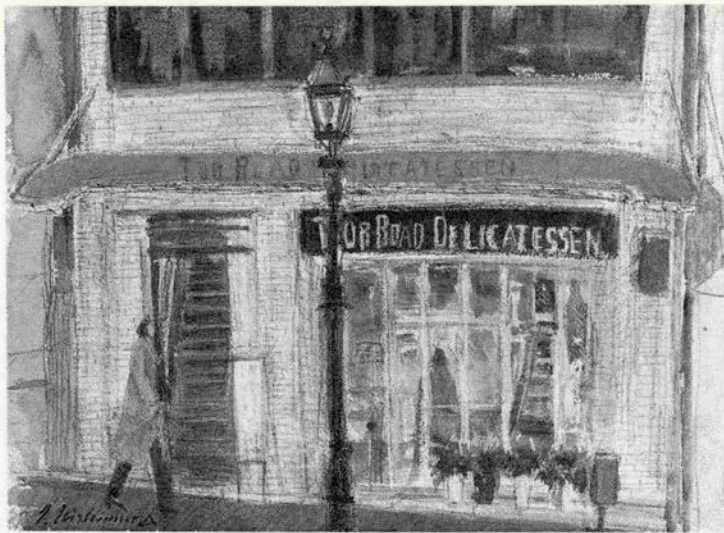
なつかしいお店です。「高島さん、寿美花代さんご夫婦の取材がありましたの」と、当主、松下幸司氏の夫人がにこやかに話してくださいました。

三十七年前初めて青辰のあなごずしを口にした時、大阪でもおいしいすし萬の小鯛ずしや、吉野ずしのちらしをよるこんでいますのに、「なんと

おいしい！」と感動したものでした。

幸司氏のお兄さんが店の中心で、どしんと采配をふるっておられた頃です。決して愛想を仰有らない無口な方でしたが、ひとくちひとくち、美味しく香高い味を噛みしめているのを見て、黙って椎茸を二、三枚、卵をすこし、小皿に入れて置いて下さるようになりました。

あなごの大好きな母も、何度か連れてゆきましたし、寝ついた時は、こちらから蓋物を持っていて、入れていただきました。枕もとに「美味しもの」があると、めざめてそっとひときれ、口にする母でしたから。



「この味はどうして？」と、せがんで、椎茸の清らかな風味に仕立てるくふうを教えてもらった。余分なもののない卵のうまみを学んだりしました。いまだに「青辰ふう」と説明して、客に供します。

幸司氏の代となってからも、「よくもここまで」と驚くほど、頑固に変らぬお味です。そして、遠く離れている者へもお心離さずに、年に二回は届けつけて下さいます。もったいないことに、フロインドリーヴのパンやパイ（こちらの好きなものをよくご存知で）も「神戸の香り」と添えてくださるのです。

それからもう一つのぜいたくは、トア・ロード・デリカテッセン。いつも頬をびかびか輝かせていらっしやる高橋明場社長が、わが心の近くにいてくださいます。率先して自ら工場にたたれる細心の「品質吟味」が貫かれ、次々と、新しくふうも加味されてきました。

同性同士の甘え気分。宝物のいっばいしまった包みが配達されるたび、感謝のおでんわで、九州やら山形やら、また信州といった各地にゆかれたお話をうかがいます。

ロースト・ビーフ、鮭のくんせい、あわび貝、六甲山牧場のカマンベール、その他、数え切れない神戸、それもこのお店ならではの珍味。わが神戸は京のわが家に息づいているのです。



△筆者紹介

一九三三年大阪府生まれ。相愛女学校を病気のため中退。一九五四年から原稿による生活。今日まで「抄本おすびの味」「女人歳時記」「いのち明かり」「習志野のほとりで」（四冊）など著作は80冊をこえる。



□エッセイ

ハンカチの バラード

青木はるみ（詩人）

カット・杉浦祐二

デパートのハンカチ売場には、いつでも女たちが楽しそうに群れている。むろん私もそのひとりなのでわかるのだが、ちょっとしたプレゼントに格好の品というだけではなく、ハンカチの模様のあの美しさは選んでいるうちに夢中にさせるものがある。

で、プレゼントのつもりがつい自分用になってしまったりするのだ。スカーフだって美しいけれど高価だからハンカチのように気軽に何枚も買うわけにはいかない。それにハンカチは、けっこう消耗するものである。一度でも外出先で手にすれば、必ず帰宅して洗うのだし、なぜか外出先で紛失してしまうことも多い。

せっかくのお気に入りやをなぜなくすのか考えてみると、パーティやお食事会で手に持っていたり膝にのせている場合、最初のうちは例えばパー

プルのドレスに淡いパープルの花模様のハンカチを合わせて、小さなところまで気を配っているつもりで自分でも気分がいいのだが、そのうちおしゃべりに気を取られたり席を立ったりしたとたんに、すっかり忘れてしまうようなのだ。

パーティといえば、或る出版記念会のあと、フロアーに飾ってあった見事なバラを数本貰って帰ろうとする男のひとを見かけたことがある。近ごろは男のひとでも花を抱いて歩くことを恥ずかしがらないのだ。

それにしても水からぬきあげられたばかりのバラの根もとからは水が垂れているし、包み紙もないままの手づかみでは、たちまちトゲにやられて痛がっている。見かねた私は自分のハンカチをくるくるとバラの根もとに巻き付け結んであげたのであった。

まあここまでは私にしてみても、いかにも優しげな仕草であつたと思う。でもほんとうは私のほうがこういう具合にして欲しかったなと思わざるをえないのだ。それよりもこの男のひとが女物のハンカチを家まで持って帰るのを想像すると、おかしくてしかたがない。その後もしばらくは想像を楽しんでいたのだが、何のことはない。或る日きちんと洗濯されアイロンをかけたハンカチが封筒におさまって返却されてきたのだった。

少しも嬉しくない。こういう律気さは。私は心のなかで「とうへんぼく！」といってみた。勢いに乗って「春のハンカチ」と題した詩を書き、あらうことか「あのハンカチには、せめて口紅くらい付けておくべきだった」と書き、ようやく気がすんだのである。

こういう話をして、まだ私の面白くない理由がわからないひとがいるかもしれないので更に説明しておく、要するに「うぬ。テキは私のこと女と思っていけない」ということなのである。

やはり出版パーティで、今度は男物のハンカチにまつわる話もある。このときは二次会の狭い場所のソファに並ぶ羽目となり、私はスカートからどうしても現われてしまう膝がしらのために落ち着かなかつた。ハンドバッグやコートは皆まとめ一つ所に置いてあり、身うごきのとれぬソファからでは手が届くわけもないのだった。

すると、どうだろう。ふわり私の膝に男物の洗ったベージュのハンカチが降ってきたのである。とっさのことで誰の心くばりかわからない。誰かはわからなかったからこそ今でも私には、そこはかとなく甘い記憶となつて残っているのかもしれない。

い。

もうひとつある。これはごく最近の話。詩人たちの集るレセプションで私は詩を朗読したのであるが、終つてからお化粧室へ行くと、中年の女性に「こやかに近付いて「お願いがあります」という。

詩集へのサインなら時々頼まれるので、またそれかなと思ひ、ひとまず手を洗っていると、その女のひとはパータオルをさつと手繰つて差しだしてくださる。恐縮して手を拭き終えるが早いか、「すまれましたか」と聞かれ、ちょっと不安になつてきたところで「握手してください」といわれてしまった。そして、お願いというのは私のハンカチを記念に欲しい。かわりに自分のハンカチを貰つて頂きたいということなのであつた。

なるほどパータオルを差しだしてくださつたのもうなずける。私のハンカチは濡れることなく渡せたのだし、彼女の用意していたのはレースの上等なハンカチであつた。

私はこのハンカチ交換の一部始終を、ちやうど四国の旅から帰つてきた息子に、はしゃぎながら報告した。「ママもこれからはディオールやイブサンローランのハンカチを持つていなくちゃね」といふと、変な顔をしている。やがて、おみやげだといつて渡したのは徳島の大歩危峽で買ったという「わさび染」のハンカチであつた。

「これで涙を拭くと目にしみるかしらね」というのが私のオーバーな御礼の言葉である。

□月刊神戸っ子30周年記念□

＜小磯良平遺作展によせて＞

画家小磯良平

I 美術学校時代

山野 英 嗣

＜兵庫県立近代美術館＞

RKOISS

1903-1988

小磯良平は一九〇三（明治三十六）年神戸市に生まれ、この地で少年時代を過ごした。神戸出身の洋画家といえば、小磯良平と同じく東京美術学校（現東京芸術大学）に学んだ金山平三（一八八三—一九六四）の名が思い浮かぶ。わが国の洋画史上、オーソドックスな技法でそれぞれ人物、風景の領域に確固とした画風を築き上げた両者が、共に神戸生まれだというのも注目すべきことである。外国人居留地の建設された港湾都市として、洋風文化が流入するモダンな雰囲気が漂う神戸の地は、あるいは洋風文化の典型である西洋画にめざめた者の心を育む、絶好の条件を提供していたようにも思えてならない。

とりわけ小磯良平の六十余年に及ぶ画業は、そのままいわばモダン昭和の時代の歩みとそっくり重なる貴重な足跡を刻んでいる。画家としてのデビューを飾る第七回帝展で特選となった《T嬢の像》は一九二六年というまさに昭和改元の年に発表された作品であり、着物姿の女性像をテーマとしながらも、洋風の室内にソファといった場面設定は、紛れもなくこの時代のモダニズムの息吹を示している。画家自身のこのモダンなものに対する感性は、例えば、ややもすれば見逃しがちな《魚（さより）》の作品にもさりげなく登場している。画面隅にあしらわれた横文字とパイプは、この静物画の単なる添え物などでは決してなく、《T嬢の像》に見られる *BOY* と記された飾り皿やネッカチーフと同様、画面上で大きな役割を演じていることがわかる。

美術学校時代の小磯良平は遠縁にあたる東京・青山の小寺謙吉のもとから通い、藤島武二（一八



自画像 1926

垣間見るようで興味は尽きない。

六七—一九四三)の教室に学んでいた。小磯良平は直接には、この藤島武二からの影響は受けていないようだが、藤島の細部にこだわらない男性的な作風は、小磯良平の自画像の中でも最大画面の《自画像》に、ひょっとして影を落としているのかもしれない。大胆なタッチで一気に描き上げられたかのような自信に溢れた顔立ちが、他の自画像小品には見られないものであり、藤島武二の一九〇三—〇四年頃の《自画像》を彷彿させる。因みに小磯良平の自画像は、美術学校卒業以後作品は確認されていない。

小磯良平の現存するこの時期の油彩作品は二十点にも満たないが、大別すると次の二つの系統に分けられるだろう。ひとつは《T嬢の像》に代表されるモダンな感覚の漂う作品と、今ひとつは、《風景》や《着物少女像》に代表されるような瑞々しい画学生らしい作品の二つの系統である。どちらかといえば後者は、習作的な要素が色濃く表れたものとして思われがちだが、それは私たちが

余りにも《T嬢の像》のような完成された作品を見慣れているために、そうした感じを抱いているに過ぎないのである。画学生時代の小磯良平の試行錯誤の跡を辿るために、いかにも画学生らしいこれらの作品群の観察は欠かすことのできない作業であり、揺れ動く若き日の小磯良平の素顔を

《風景》はこの時代の数少ない風景画の一点であるが、小品ながらも丹念に描き込められ、印象派風の初々しい趣のする作例となっている。さらに《瑠璃水差のある静物》では、静物画における手堅い学習の成果を示す画面構成と事物の質感とを追求する姿勢が窺える。とはいえずでにこの時代から、小磯良平の関心は人物に寄せられ、若干の裸婦像に加えて、一九二四年の《着物少女像》以後は、恐らくは身近なモデルを描いたのであるうか、着物姿の女性像が目につく。そしてこの女性像は、早くも先に触れた《T嬢の像》で一挙に最高潮へと達するのであった。

美術学校在学時、藤島武二の教室には、牛島憲之(一九〇〇—)、荻須高德(一九〇一—一九八六)、猪熊弦一郎(一九〇二—)、岡田謙三(一九〇二—一九八二)、山口長男(一九〇二—一九八二)らそうそうたる顔ぶれが集まっていたのは、小磯良平の画学生時代を語るに際して欠かすことので

きない事実である。その中にいてなお、人物像という奇をてらうことのない表現領域で、他者を寄せつけない力量を発揮し得たのも、卓越した描写力もさることながら、小磯良平が幼い頃から自然に親しんでいた神戸という都市のもつ近代感覚を、一方で充分に養分として蓄えていたからに相違ない。その具体例が『T嬢の像』や、翌年の美術学校の卒業制作『彼の休息』に結晶していると思われるのである。

ここで再び、小磯良平の記念碑的な作例となつた『T嬢の像』について振り返ってみたい。それというのも、この作品も『彼の休息』も共に東京ではなく、神戸で描かれているそのことを強調しておきたいからである。当時、美術学校五年目にあたる一年間は在宅研修の期間であつた。前年に実父岸上文吉の死去に伴い、祖母の姪である小磯家の養子となつて小磯姓を名づけることになつた良平は、神戸のこの小磯宅で制作にとりかかった。

遠縁の落合敏子をモデルに、その名の頭文字Tをとってハイカラな作品名とした『T嬢の像』は、こうして命名されている。小磯良平の美術学校進学以前の神戸二中（現兵庫県立兵庫高校）からの親友であつた竹中郁は、まさに的確にこの作品を評して「その大正十五年夏の作『T嬢の像』というのは、後年の小磯の集大成を先見させるような風^{ふう}つきの快作であつた」と記している。

そして次に、卒業制作作品として着手したのが、この時代の最も大きな画面の『彼の休息』であつた。何もこの作品のモデルが、後にモダニズムを代表する詩人となる竹中郁であるということを知らなくとも、ラガー・スタイルのその容姿から、モダン・ボーイを描ききつた小磯良平の作画意図が生々しく伝わって来るようだ。この『彼の休息』は、モデル竹中郁に自らの姿を託した、神戸生まれで神戸育ちのダンディな小磯良平自身の精神的自画像であるかもしれない。傍らには、パリの

T嬢の像 1926

都会的センスを身につけた画家・マネの画集をあしらい、暗に「洋画家・小磯良平」を主張しているようである。この力作には、美術学校のそれまでの最高得点を記録していたとされるあの金山平三をも追い抜く評点が与えられたといわれ、小磯良平は首席で卒業したのである。

「小磯良平遺作展」

五月二十五日(土)～七月七日(日)

兵庫県立近代美術館にて開催中

お問合せ／078(801)1591

